

- ・国産生乳の需要量推計等について

農林水産省

畜産局

R12年度までのすう勢線の計算方法

1. 過去20年間のすう勢線の抽出

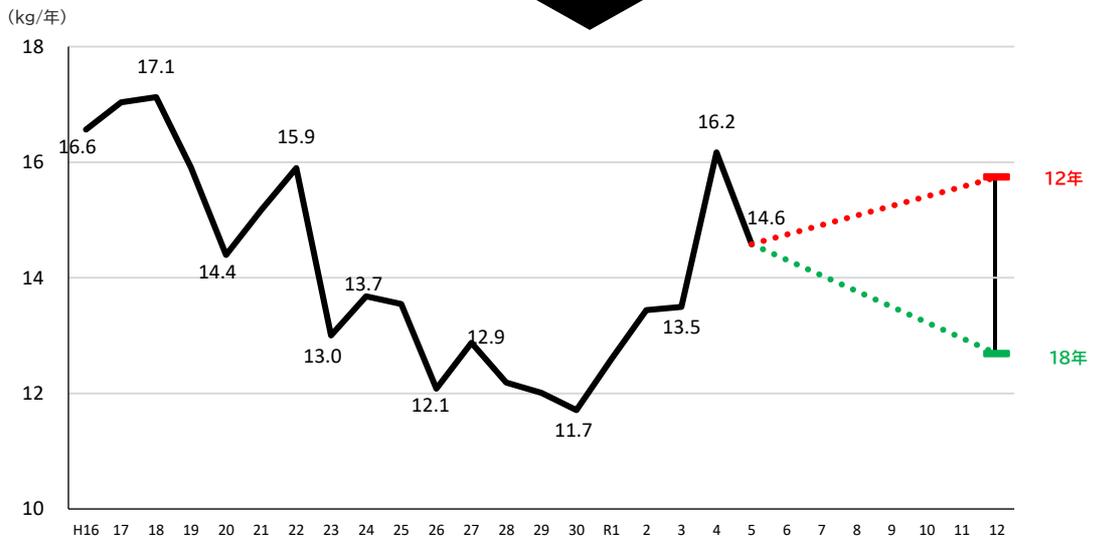
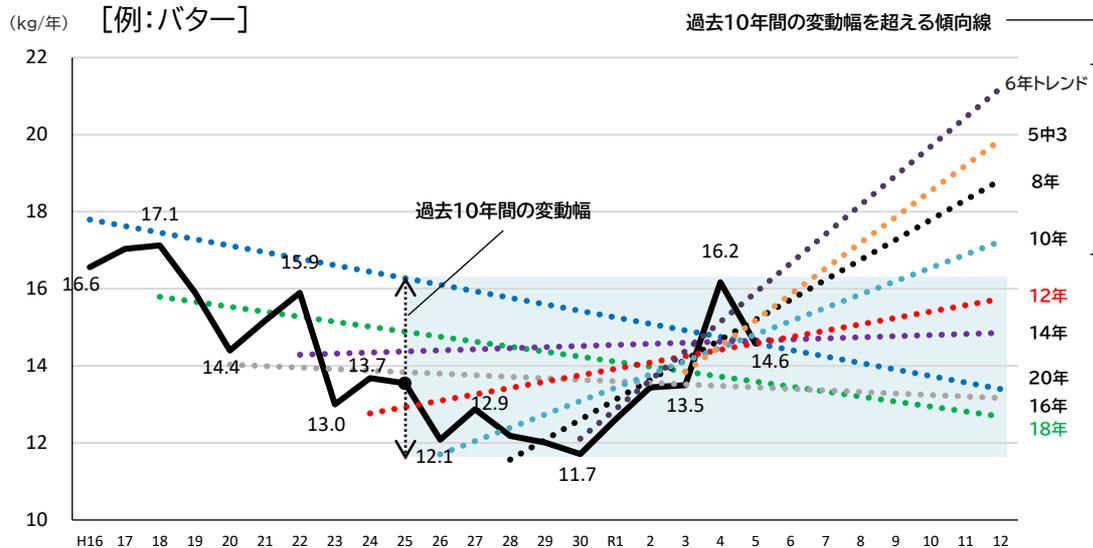
H16年からH30年までの隔年を起点にR5年度までを終点とする合計8本の傾向線と、R元年からR5年までの5中3データの傾向線の合計9本を計算し、それをR12年まで延伸。

2. 特異的な消費量・年のデータの除外

- ・輸入量や近年の脱脂粉乳等対策による消費量は除外
- ・コロナ禍における特異的な動向が明らかな場合は、その年度の値のみを除いて傾向線を計算

3. 直近10年間の動向と異なる傾向線の除外

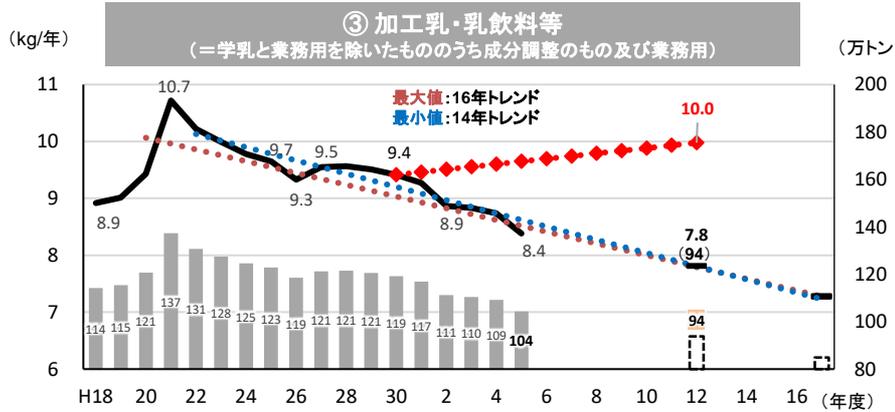
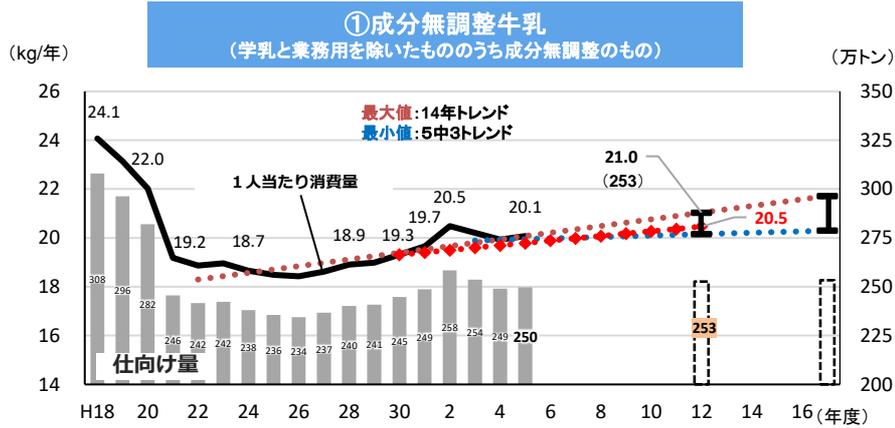
- ・H25年からR5年までの10年間の変動幅を算出し、その変動幅を超えるすう勢値を除外
- ・H25年以前において、H25年以降と大きく異なる動向が見られた場合は、その動向を含む傾向線を除外



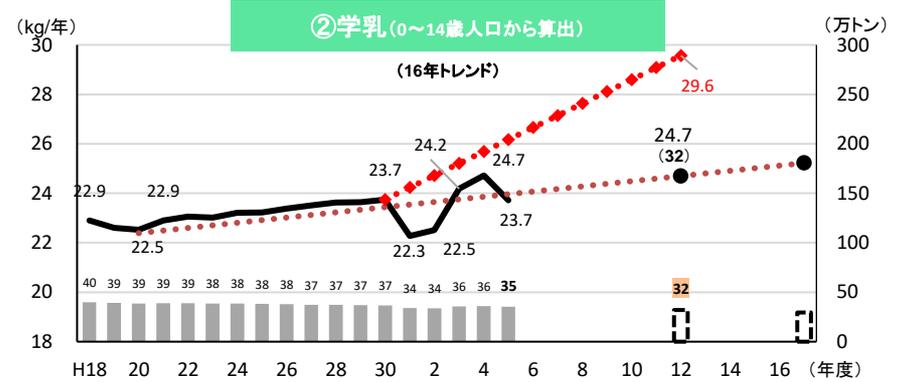
牛乳等向け生乳消費量のすう勢推計

○ 1人当たり消費量のすう勢を基に令和12年度の仕向け量を推計すると、令和5年度と比べて、

- ・成分無調整牛乳は微増(+3万トン)
- ・加工乳・乳飲料等が減少(▲13万トン)



資料：ALIC「製造品目別配乳数量」、総務省「人口推計」をもとに牛乳乳製品課で推計



■飲用向け分類表

	学乳	業務用	〔牛乳無調整低・無脂肪乳〕	加工乳はつ酵乳乳飲料乳酸菌飲料
成分無調整	②	③	①	—
成分調整	②	③	③	③

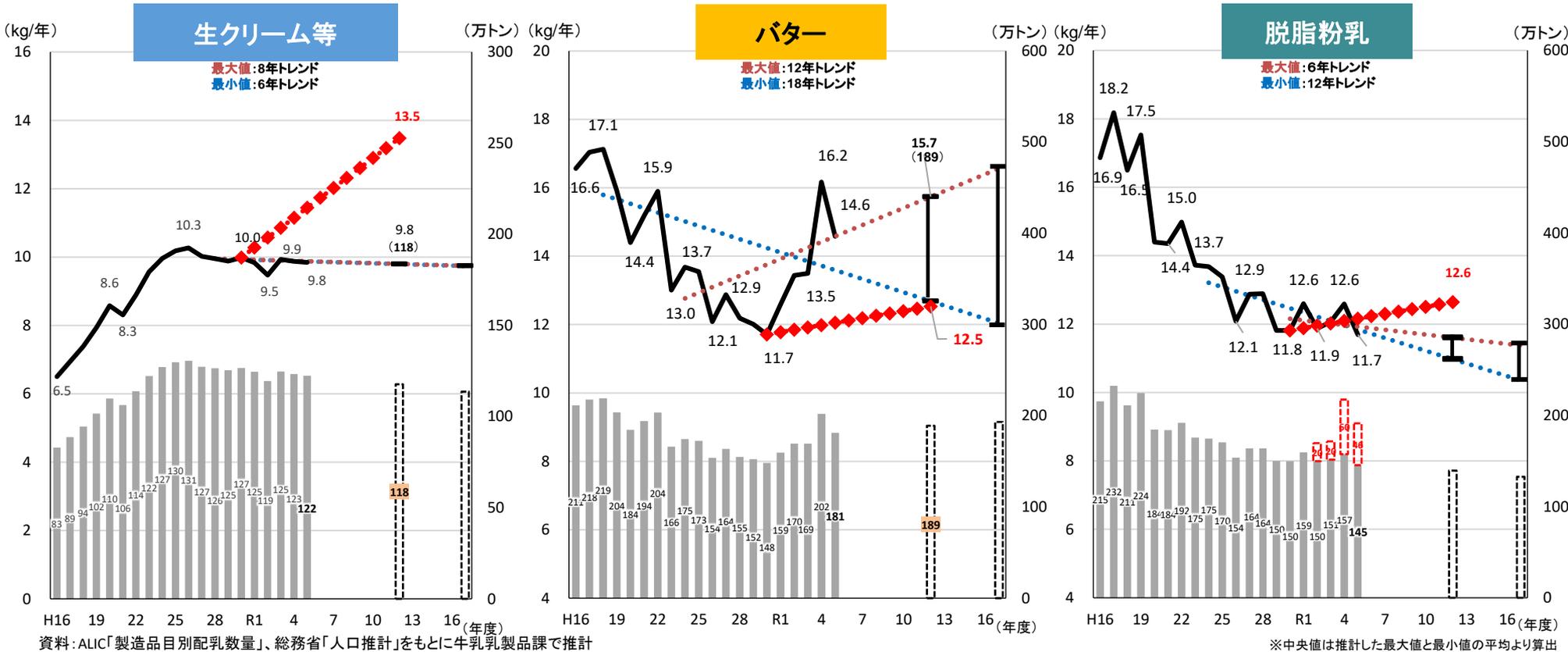
※中央値は推計した最大値と最小値の平均より算出

	R5年度仕向け量		R12必要生乳量
成分無調整牛乳 (学乳と業務用を除いたもの)	250	→	253 (+3)
学乳	35	→	32 (▲3)
加工乳・乳飲料等	104	→	94 (▲10)
合計(対R5年度増減量)	390	→	368~378 (▲12~▲22)

生クリーム等・脱脂粉乳・バター向け生乳消費量のすう勢推計

○ (1人当たり消費量のすう勢を基に令和12年度の仕向け量を推計すると、令和5年度と比べて、)

- ・生クリームは微減(▲4万トン)
- ・バターだけをみれば増加(+16万トン)するものの、脱脂粉乳需要の低迷という課題は継続



R5年度
仕向け量

R12年度
必要生乳量

生クリーム等
(対R5年度増減量)

122



118
(▲4)

R5年度
仕向け量

R5年度
消費量

R12必要生乳量

バター
(対R5年度増減量)

173

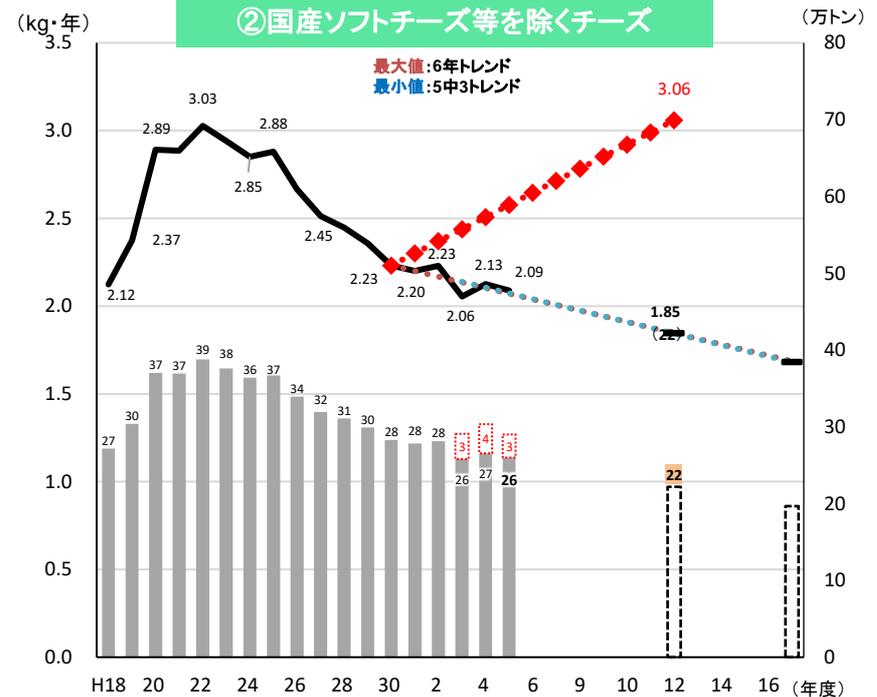
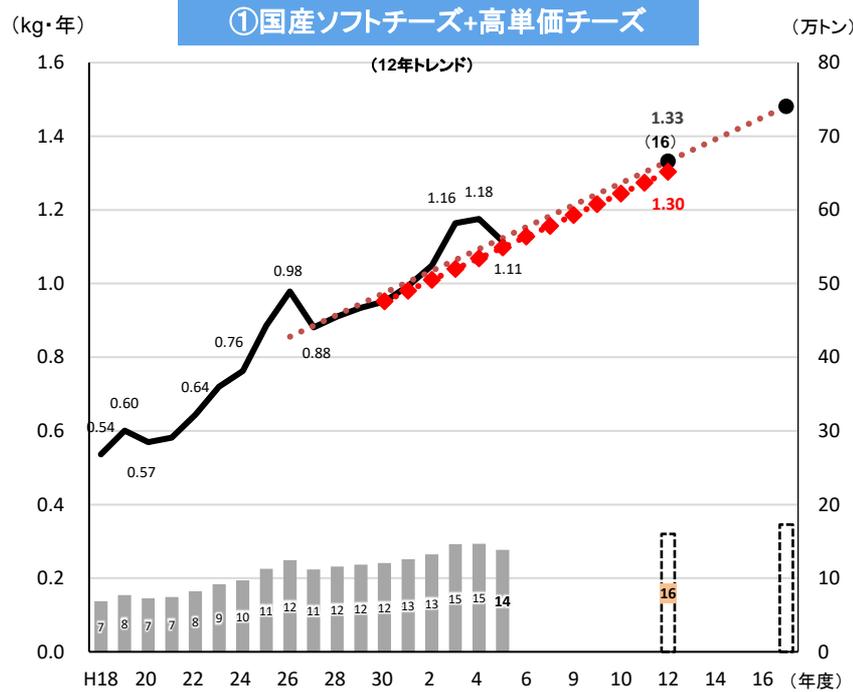
181

189 (+17)

チーズ向け生乳消費量のすう勢推計

○ (1人当たり消費量のすう勢を基に令和12年度の仕向け量を推計すると、令和5年度と比べて、)

- ・ソフトチーズは微増(+2万吨)
- ・ハードチーズ等その他は微減(▲4万吨)



資料：ALIC「製造品目別配乳数量」、総務省「人口推計」をもとに牛乳乳製品課で推計

	R5年度 仕向け量		R12必要生乳量
①国産ソフトチーズ+高単価チーズ	14	→	16 (+2)
②国産ソフトチーズ等を除くチーズ	26+3 (対策)	→	22 (▲4) + 4 (販売対策見込み量)
合計 (対R5年度増減量)	43	→	42 (▲1)

生乳の総需要量のすう勢推計

○ 用途別のすう勢値を合算した令和12年度の国産生乳の合計需要量は、令和5年度(730万トン程度)と同水準。ただし、その内訳では、牛乳等が減少し、その分バターが増加が補完。加えて、令和4・5年と同規模4～5万トンの脱脂粉乳対策が前提。

■R12の推計方法

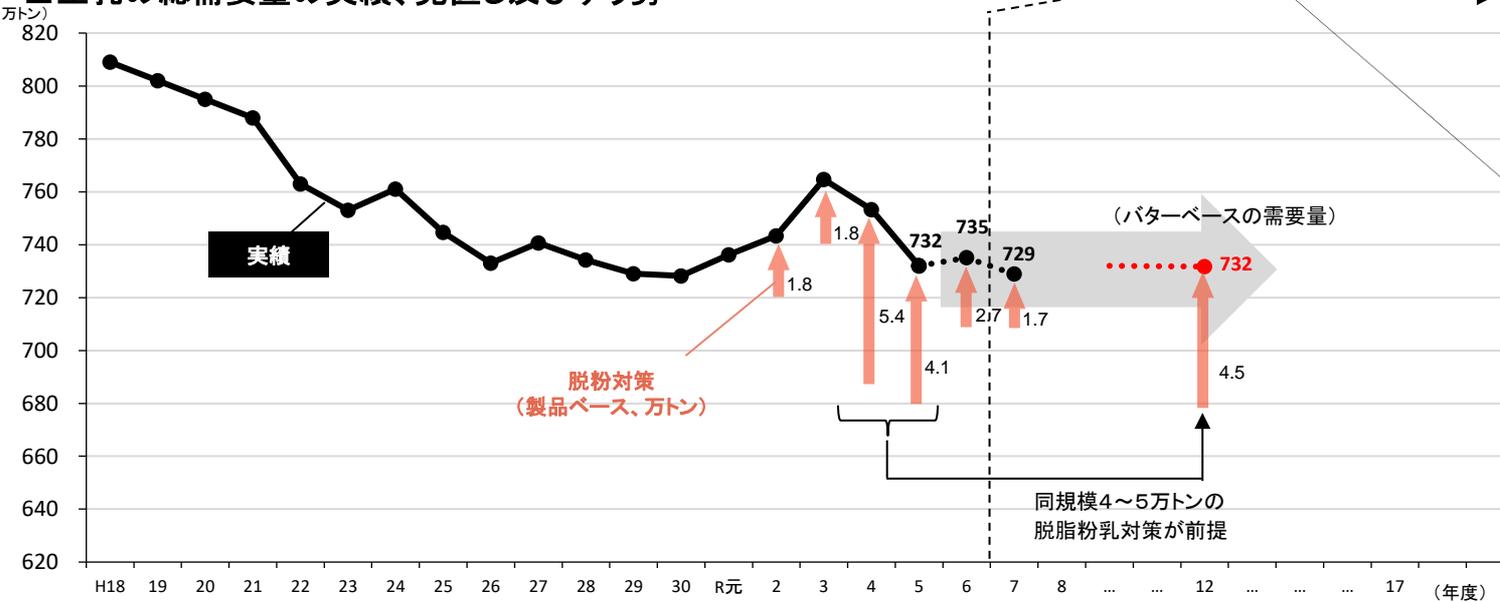
○ 過去20年間の消費量を基に、各用途別に 低位及び高位のすう勢を推計。
右表のR12はそのうち高位の場合の値。牛乳等は低位の場合の値も並記。

R6.7はJミルク見直し、R12は牛乳乳製品課推計 (万トン)

	R4	5(R4比)	6	7(R6比)	...	12(R5比)
総需要量	753	732	735	729(▲6)	...	732
牛乳等	400	390(▲10)	388	389	...	368~378(▲12~▲22)
脱バ (バターベース)	181	173	177	169(▲8)	...	189(+17)
脱粉の 需給ギャップ 又は対策	5.4	4.1	2.7	1.7	...	4.5
生ク等	123	122	123	123	...	118
チーズ	45	43	42	43	...	42
自家消費	5	5	5	5	...	5

牛乳が減り、その分をバターが補完
バターと脱粉の需要の乖離が続く

■生乳の総需要量の実績、見直し及びすう勢

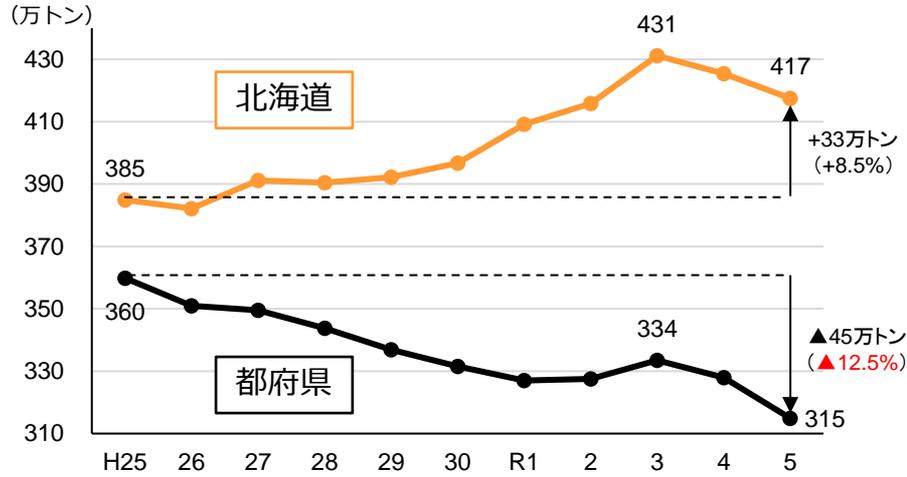


現状のままのすう勢であっても、向こう5年間で
・更に10万トン以上の牛乳需要の減少
・4～5万トンの脱粉在庫の積み上がり
が課題
向こう5年間、牛乳・脱粉の需要拡大に向けた行動と成果を積み上げていく必要

毎年の業界を挙げた需要拡大の取組の成果を踏まえ、その目標達成の可能性やそれ以上の生産拡大の必要性を検証していくべき

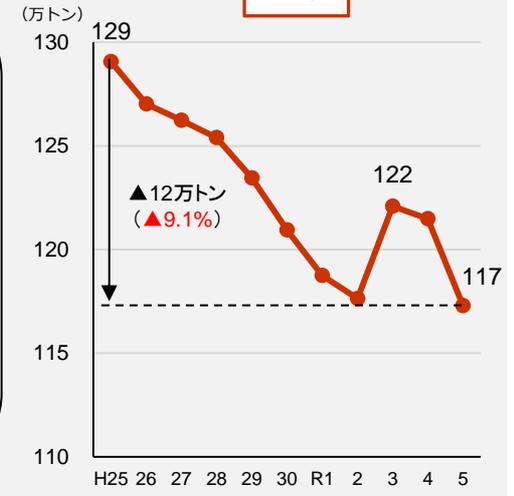
過去10年の北海道及び都府県の生産量の推移

北海道及び都府県の生産量

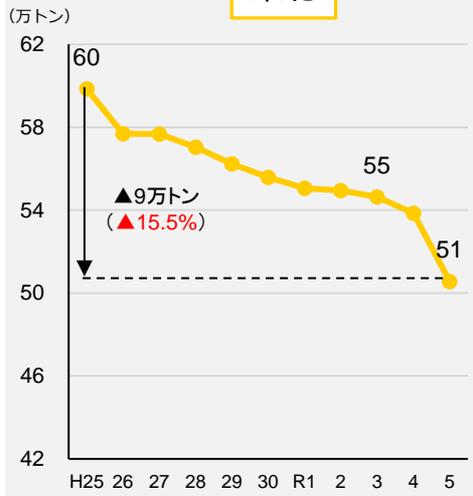


■内訳	
関東	▲12万トン
東北	▲9万トン
北陸・東海・近畿	▲14万トン
中国・四国	▲1万トン
九州	▲9万トン
都府県	▲45万トン

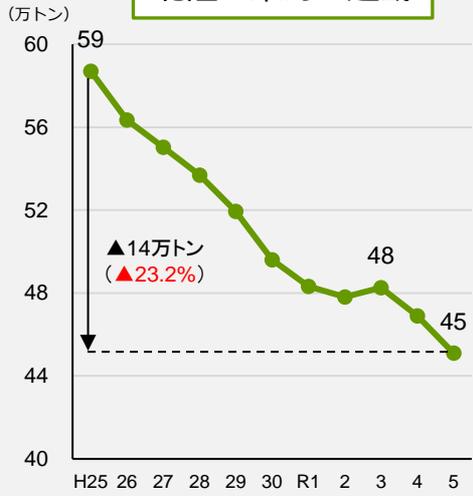
関東



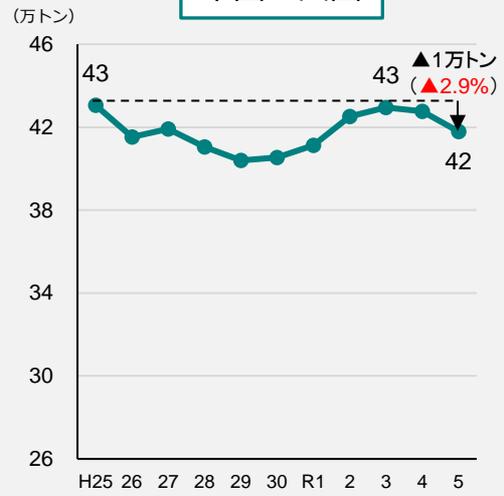
東北



北陸・東海・近畿



中国・四国



九州

